

「DXによる学修者本位の学修の実現」に向けた取組

令和7年9月24日
熊本保健科学大学

1. 修学ポートフォリオ (Active Academy) により、学生の習熟度等のデータを把握する
2. 学生に対して、上記1のデータを可視化するとともに、学生の学修状況に応じた科目履修等の学生の学修計画に係るアドバイス等（面談）を実施する
3. 学生の学修状況及びその分析結果を教員等に対して可視化するとともに、当該データに基づき、大学全体の教育課程の編成等における改善の検討を全学的な学内体制（教育改革推進会議）において実施する
4. DXによる学修者本位の学修の実現に向けた指標を設定する
 - (1) アウトプット指標【面談実施率※：対象学年の100%】
※面談件数は Active Academy 上の面談記録をもとに集計
 - (2) アウトカム指標【学生満足度※1：4.0※2以上】
※1 学修行動調査における満足度 [講義実習]
※2 現状 4.09 (学修行動調査 (2~4年次) R7 調査結果)
5. 上記4の指標の妥当性について評価する体制※を構築する
※DX推進会議に学外の有識者および産業界の属する者を含めて、令和7年度中に開催する